

(様式2)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 27 年 3 月 12 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3472100316		
法人名	社会福祉法人相扶会		
事業所名	ビハーラ相扶		
所在地	〒729-6143 広島県庄原市尾引町263-2 (電話) 0824-75-2077		
自己評価作成日	平成26年12月20日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	(社福) 広島県社会福祉協議会
所在地	広島県広島市南区比治山本町12-2
訪問調査日	平成27年1月20日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>ご入居者一人ひとりの出来ること・得意なことを生活の中で発揮していただき、生き生きと生活していただけることを目標にして取り組んでいる。また、季節を感じられる行事の実施やご入居者の喜びにつながる個別対応に力を入れている。当ホームが緑に囲まれた環境の中にあることを活かし、近くの畑で収穫した四季折々の新鮮な野菜を調理し食すことにより、自然の恵みや季節の変化を実感し、生きがいや楽しみのある豊かな暮らしを実現できるように取り組んでいる。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>ビハーラ相扶（以下、ホーム）は、自然豊かな山々に囲まれ、静かな環境の中にあります。社会福祉法人相扶会を母体法人とし、地域の人たちが安心して生活できる拠点施設となることを使命として、地域福祉の向上に努めておられます。</p> <p>ホームでは、入居者が生き生きと過ごせるよう、「私の暮らし目標」という名称で独自に介護計画の様式を作成し、入居者のできることや困りごと、受けたいサービス等、入居者目線で記載するなど、一人ひとりの状態に合わせた個別での支援に力を入れておられます。</p> <p>また、皆で楽しめる行事等を実施し、メリハリのある生活が提供できるよう取り組まれています。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「法人の理念と基本姿勢」は園内研修で管理者より周知されている。その理念を元にグループホームスタッフで考えた「私たちの取り組み」を掲げている。「法人の理念と基本姿勢」「私たちの取り組み」を事務所内に掲示し、毎日朝礼時出勤者全員で唱和している。	開設時に職員全員で考えた支援の姿勢「私たちの取り組み」を日々のケアで実践し、適宜見直しの必要性についても話し合われています。また、訪問した1月は、「笑顔でやさしい声かけを」をホーム独自の月間目標として掲げ、職員全体が共有し実践できるよう努力されています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地元主催の催し物には参加するよう取り組んでいる。また地元の小学校とは日頃から交流があり、毎年、運動会・花田植え等には招待していただき参加している。また、小学生の訪問もあり、ご入居者の楽しみになっている。	開所当初から地域住民と交流を持ち、町内会行事には入居者も参加されています。法人主催の夕涼み会や相扶春まつりには、地域住民の参加があります。行事を通して顔見知りの関係ができ、地域住民からは見守りや声かけなどの協力を得られています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	各部署のミーティングや職域代表者会議などにて地域の高齢者の暮らしに役立つ内容を話し合い、法人全体で取り組んでいる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議では、活動報告・意見交換を行い、更なるサービスの向上に努めている。今年度は2回開催した家族会に参加していただき、委員の立場からの意見をいただいたり、一緒にうどん作りをしていただいたりして、より一層ホームの内容を理解していただけるよう取り組んでいる。	2か月に1回開催する会議には、市行政担当課係長、地区の自治振興センター事務局長、家族等の参加があります。26年度は、委員の提案をきっかけに、家族会と一緒に行事を兼ねて会議を開催されています。ホームの活動の様子を直接見て知ってもらう機会にもなり、相互で協力関係を築く場にもなっています。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市町の担当者とは、指定申請の関係の相談や利用者にかかわる相談・苦情に始まり、地域包括支援センター（市直営）、介護保険系の担当者とは、市ケアマネ協会の活動・研修等を通じた交流があり質の向上に取り組んでいる。	運営推進会議には、市行政の出席があり、参加者の意見やホームの現状を直接理解してもらう機会となっています。ホーム長は、地域包括支援センターの依頼で、認知症アドバイザー講師として協力した経験もあり、福祉サービスの向上に協力し合いながら関係を築かれています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>園内研修・職場内研修で身体拘束についての学びの機会を設け、正しく理解できるように取り組んでいる。日中は玄関の鍵はかけず、門扉も開けた状態としており、不穏時には側に付き添い思いを傾聴している。</p>	<p>ホームでは、身体拘束を行わない方針を掲げ、法人・事業所内研修で職員への意識の徹底を図られています。また、家族にも「身体拘束をしないために」を特集にした便りを出すなど、理解と協力が得られるよう努力されています。職員は、指示的な言葉を使わないよう注意されています。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>園内研修・職場内研修にて学ぶ機会を設け職員に周知徹底している。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>職場内研修にて学ぶ機会を設け、権利擁護の重要性について理解を深めている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時・解約時には、十分な時間をとり管理者・ホーム長より説明を行い、理解・納得を得ている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>相談や苦情を受け入れる窓口となる職員を明確にし、契約時には説明書を掲示し口頭で説明している。玄関には意見箱を設けご意見が頂けるようにしている。家族会開催前にはアンケートを実施し、今年度はアンケート結果内容についてお答えを文書にして送付した。また、いただいたご意見はすべて、職員ミーティングにて検討し意識統一している。</p>	<p>家族会を年1～2回開き、家族との交流を通して意見が言いやすい環境を整えられています。また、毎月家族に送付する「ビハークラ便利」には、担当のコメントと写真を添えて、入居者の日頃の様子や行事の風景を紹介されています。意見箱に投函された内容をきっかけに、玄関入口に職員の名前と顔写真を掲示するなど、出された意見等が運営に反映されています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>毎月のミーティングはホーム長出席のもと実施し意見や提案を出し合っている。毎日朝礼後ユニット間の情報交換の時間を設けている。</p>	<p>職員ごとに業務担当を決め、それぞれの分野で意見や提案が出しやすい環境がつけられています。ホーム長は、職員と話す機会を多く持ち、信頼関係を築きながら、職員が活発に意見や提案を出せる雰囲気づくりに努めておられます。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>ホーム長は代表者・管理者と連携して、職員のモチベーション向上に努めている。法人内のキャリアパス整備に取り組んでいる。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>認知症実践研修やリーダー研修を積極的に受講させるなど、外部研修に参加させている。資格取得支援や法人内研修発表会を行なっている。職場内研修も定期的に行ない、職員の育成に努めている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>市のケアマネ協に所属し研修に参加している。また、職員はキャラバンメイトやオレンジアドバイザーとして、市の連絡協議会に参加し、情報交換や地域のニーズ把握に取り組んでいる。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>利用者の状態に合わせてながら必要に応じて、本人の話を傾聴する時間を設け不安を解消するよう努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族の要望に合わせ、相談を受ける機会を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	初期対応は、関係づくりで最も重要な場面である為、ホーム長・係長が対応することとしている。また、必要な場合は、併設の事業所のケアマネジャー等の支援を活用しながら対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者主体の生活を心がけ、生活の中に役割を持つことができるように援助している。また、食事作りや手作業など、利用者と一緒にやり、利用者から学ぶ機会を設けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	通院、外出・外泊、季節の衣替え等ではご家族の協力をいただき、職員と共にご本人を支えていただいている。また、家族会を開催したり、毎月、活動報告・行事予定・ご本人の様子を伝える「お便り」を発送しており、ご家族との絆が深まるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	行きつけの美容院を継続利用できるように援助したり、デイサービスと連携をとり馴染みの方と定期的に会う事ができるよう支援する等、馴染みの関係が途切れないように努めている。	入居者との日常会話や家族からの情報を得て、ホームと家族が協力し合いながらこれまでの関係が途切れないよう支援されています。家族や知人などが訪問した際は、お茶とお菓子を出し、入居者とゆっくり会話を楽しめられるよう配慮されています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	日頃の利用者同士の関係を観察し、変化等を職員間で共有し合いながら、トラブルが無くよりよい関係が継続できるよう対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	継続的な関わりを必要とされている利用者には随時連絡を取り、ご家族の相談もその都度受けている。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃の会話や行動から、利用者の希望や意向を把握するように努め、ケアカンファレンスやモニタリングの際スタッフ間で検討し、希望や意向に添えるように取り組んでいる。	入居者の表情や日々の様子を見ながら思いや意向の把握に努めておられます。入居者のその日その時の思いに添って、休憩時や食事の際の座る位置などにも配慮されています。また、ミーティング等で得た情報や気づきを職員全体で共有し、本人に寄り添ったケアの実践に取り組まれています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所アセスメント時、ケアプラン作成アセスメント時に、ご家族・ケアマネジャー等から情報を集約しており、スタッフ間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の記録や訪問看護師によるバイタルチェックファイル等共有し現状の把握に努めている。また、毎月のミーティング・3ヶ月に1回のモニタリング等で課題を明確化している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>利用者・家族のご意向を考慮に入れ、ポジティブプランを作成するように努めている。ケアカンファレンスでは医療・栄養・介護の専門職が集まりそれぞれの立場から意見を出し合っている。6か月ごとの見直し・3か月ごとのモニタリングを行い、状態の変化があった時は早急に見直し新たな計画を立てている。</p>	<p>ホームでは、ケアプラン立案手順を明確にし、担当職員を中心に、モニタリングから把握できる入居者の状況を整理し、計画作成担当者やホーム長、専門職と検討しながら現状に即した計画が作成されています。ホーム独自で計画の様式を作成し、「私の暮らし目標」という名称で、できることや困りごと、受けたいサービスなどを入居者目線で記載されています。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>ケース記録を重要としており、日々の様子が分かるように詳しく記録している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>法人全体で利用者・家族の暮らしを支えるように柔軟な支援を展開しており、具体的には、管理栄養士の栄養評価・指導や訪問看護師による健康管理、老人介護支援センターによる相談や調整等を実施している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>地域の敬老会や小学校での地域運動会・花田植え等に参加し、日頃から地域の方々との交流機会を増やし、豊かな暮らしを楽しみつつ同時に地域の見守りによる安心安全を得られるようにしている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>利用者にとってより適した医療が受けられるように、利用者・家族の希望を大切にして支援している。家族の希望に応じ受診援助や家族と共に通院に同行したりしている。</p>	<p>協力医療機関以外のかかりつけ医は家族の対応を原則としていますが、難しい場合は職員が付き添われています。また、状態によっては、家族と一緒に職員が受診に付き添い、日常の様子を伝え適切な医療を受けられるよう支援されています。必要に応じて協力医療機関の医師による往診があります。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>法人内の訪問看護師による定期訪問時や月1回程度のかかりつけ医受診時等で連絡相談を密にし、日常の健康管理や医療活用への支援をしている。また、必要時には適時相談・報告している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>利用者が入院した場合には、再々、様子伺いして病院との情報交換を行い、入院中に利用者が安心して治療でき早期退院できるように努めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>家族との話し合いや医師への相談を繰り返し、利用者・家族にとって最良の援助が提供できるように努めている。 （「重度化した場合の指針」・「看取りの指針」については重要事項説明書に全文を掲載して、入所時にもホームとしての対応を説明している。）</p>	<p>これまでにホームで看取りをした経験があります。重度化の兆候が見られる場合には、早い段階で家族と相談されています。過去には、診療所の看護師を講師に研修を実施した事例があります。また、医師や訪問看護と連携を図り、職員全体で綿密に情報を共有しながら、チームとして支援できるよう体制を整えておられます。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>緊急時の対応が速やかに行えるように事務所内にマニュアルを掲示している。園内研修・職場内研修で応急手当や初期対応の研修を行っている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>法人全体の避難訓練に参加すると共に、グループホーム独自の避難訓練を実施している。避難訓練には地域の参加もあり協力体制を築けるように努めている。</p>	<p>ホーム独自の訓練は、警備会社の立ち合いのもと実施されています。いざという場合に備えて、頭巾を試作するなど、対策方法に工夫を重ねておられます。災害時には、関係機関へ速やかに通報できる装置を完備されています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	接遇に関しては、園内研修・職場内研修にて研修項目に取り上げ、チームとして向上するように取り組んでいる。	職員は、入居者一人ひとりの性格に合わせた声かけに配慮されています。また、敬意を持った対応ができるよう徹底されています。入室時には、ドアを必ずノックしたり、入浴のドアの鍵閉めを徹底したり、入居者のプライバシーを大切にされたケアとなるよう、職員全体で確認し合いながら支援されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	傾聴の姿勢を基本にして関わり、利用者を主体とした生活が提供できるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者一人ひとりの体調やペースに合わせて、生活できるよう心がけて支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	利用者の希望に合わせて、職員の付き添いで行きつけの美容院を利用したり、スタッフによるお化粧品・散髪を実施し、利用者が気分良く生活できるように努めている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事準備や片付けは、利用者一人ひとりのできることに着目して声掛けし、役割として実施できている。職員も同じ食事を摂っており、味や食材について会話しながら食べている。また、季節ごとの旬の食材を使うことや行事食には力を入れており、食を楽しんでいただけるように取り組んでいる。また、お誕生日にはご本人の好きな献立にしてお祝いしている。	ユニットごとでメニューを決め、職員が手作りした食事を提供されています。入居者は、調理の手伝いや洗い物、盆拭きなど、できることを手伝われています。時には、ホットケーキやおはぎを入居者と職員と一緒に作ったり、茶道をしていた入居者がお茶を点て皆に振舞ったり、食の楽しみに繋がる機会づくりに取り組まれています。また、入居者と職員が同じテーブルで同じ食事を摂り、共通の話題で和やかな雰囲気は何えました。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	併設施設の管理栄養士に2ヶ月に1回の検食を依頼すると共に、検食日の1日分のカロリー計算を依頼し、栄養指導を受けている。体重コントロールが必要な方については、見た目で本人がストレスを感じないように配慮しカロリー制限の食事を提供したり、減塩の調味料を使用し食材のうまみを活かしながら減塩できるように取り組んでいる。水分摂取量の足りない方には本人が好きな飲み物を提供したり、飲み方を工夫したりして、できるだけ水分摂取できるように取り組んでいる。		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	利用者の力に応じ、歯磨き・義歯の手入れ・うがい等の支援をしている。自歯の方に関しては定期的に歯科衛生士の口腔ケアが受けられるように対応している。		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	定期的なトイレ誘導と挙動（しぐさ）判断での誘導により、トイレでの排泄を増やすように心掛けている。	排泄チェック表で一人ひとりのパターンを把握されています。各ユニットにトイレが3か所あり、男性用立位小便器の設置、車椅子でも可能な介助スペースの確保など、それぞれの習慣や状態に配慮したトイレ環境が整備されています。	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	便秘傾向にある方に対して、できるだけ薬に頼らず自然排便が可能となるように、運動や水分摂取、食事に繊維物の食品を取り入れたり、野菜の多い献立にしたりしている。また、腸内環境を整える飲み物を飲用する等の対応をしている。		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	時間帯・入浴時間・回数等、利用者の希望に合わせて支援している。	2日に1回の個別入浴を基本に、希望があれば毎日でも入浴が可能です。脱衣所には、扇風機、パネルヒーター、浴場にはエアコンを設置し、温度差に配慮されています。入浴を好まない入居者には、タイミングを見ながら声かけの工夫や、家族の協力を得て支援されています。時には、ゆず湯や菖蒲湯など、季節を感じながら入浴を楽しめるよう工夫されています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	利用者の状態を観察しながら無理のないように適度な休息が取れるよう援助している。夜間眠れない利用者に対しては、日中の活動が活発に行えるように支援すると共に、不眠の原因を早急に解明し必要な援助ができるように心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	全職員が処方薬を把握しており、副作用に関しても個人ケース記録に明示している。服薬に関して変化の有無を早期発見できるように観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	利用者や家族から生活歴や好きなこと、得意なことを聞いて、実行できるように支援している。 生活の中で役割となり楽しみながら行えている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	希望にそって外出援助するよう取り組んでいる。身体的に遠方への外出が難しい方は車椅子での散歩を積極的に行っている。また、退屈な状態や精神的に落ち着きのない状態が見られれば、ドライブ等実施し、気分転換できるように支援している。	入居者の体調に配慮しながら、天候の良い日にはホーム周辺の散歩や、ドライブに出かけておられます。市民会館で開催される歌謡祭や菊花展、地域行事など、入居者の希望を取り入れながら、毎月、さまざまな場所へ外出されています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	家族との相談の上、利用者一人ひとりの力量に応じ、金銭管理が行えるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。</p>	<p>利用者の希望時には即応している。また、ご家族・友人の写真を目の前にして相手のイメージがわくように話しかけながら葉書きが書けるように支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>家庭でよくある物品を取り揃えている。壁には季節を感じられる個人の作品や合同作品を飾ったり、洗面所や食卓に利用者が摘んでこられた草花を生けるなどして居心地よくするように取り組んでいる。</p>	<p>共用空間とキッチンが一体的な構造で、入居者が食事の準備などを手伝いやすい造りです。大きな掃き出し窓から自然光が入り、明るい空間となっています。入居者は、ソファでテレビを見ながら寛ぎ、思い思いのスタイルで過ごされています。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>事務所は利用者が自由に出入りできる空間にしている。また、廊下奥に椅子を設置している空間は入居者同士の語らいの場所になっている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>家族より家での生活の様子をお聞きし、担当職員が中心になり、その人らしい環境づくりに努めている。</p>	<p>居室には、エアコン、ベッド、押入れが完備されています。入居者は、使い慣れた家具や身の回り品などを持ち込み、居心地良く過ごせるよう工夫されています。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>建物内部はバリアフリーで手すりも随所に設置してあり、安全に出来るだけ自立して生活できるように工夫している。</p>		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

